



self - napping

相田昭写真展

『作家の周辺』、その後

東北ゆかりの作家・画家の肖像

作家： 三浦哲郎 丸谷才一 色川武大 寺田 博 立松和平
高橋克彦 奥泉 光 池上冬樹 佐伯一麦

画家： 真下慶治 奥田郁太郎

会期： 2015 12月4日(金) — 2016 1月19日(火)

場所： 真下慶治記念美術館 企画展示室

12月5日(土) PM 2:00 相田昭氏 ギャラリートーク

主催： 真下慶治記念美術館 山形県村山市教育委員会

後援： 日本文藝家協会

お問い合わせ： 〒995-0054 山形県村山市大淀 1084-1 TEL 0237-52-3195 HP: www.massimo-k.org

相田 昭 Profile

| | |
|-----------|--|
| 1946 | 長崎県生まれ |
| 1969 | 法政大学卒 |
| 1970 | 通信社勤務 |
| 1974 | フリーランスフォトグラファーとして独立 |
| 1978 | 雑誌の仕事をするかたわら作家や画家のポートレートを撮り始める |
| 1983 | 写真展「彼の故郷」小川国夫のいる風景を静岡駅ビル・パルシェにて開催 |
| 1989 | NHK歴史誕生を角川書店より出版のためグラビア写真担当として現地特派 |
| 1990～1991 | NHKスペシャル 大モンゴル（角川書店）3巻、現地取材特派 |
| 1992 | 写真集「草原の民、自由の民」（角川書店） |
| 1993 | NHKベルリン美術館（角川書店）3巻、現地特派 |
| 1994 | 相田昭写真集「作家の周辺」新潮社刊 |
| 1997 | NHKスペシャル ブッダ 大いなる旅路 現地特派（NHK出版）3巻 |
| 1998 | NHK レオナルド・ダ・ヴィンチ 「よみがえる最後の晩餐」 現地特派 |
| 2009 | 写真展「七枚のポートレート」 画廊官坂、銀座 |
| 2010 | 写真展「彼の故郷」小川国夫を撮る 藤枝市文学館 |
| 2013 | 写真展「文士の二十面相」 澁澤龍彦・吉行淳之介の肖像 法政大学（ボワソワードタワー・スカイホール） |
| 2014 | 写真展「画家 奥田郁太郎」 北アルプス展望美術館 長野県池田町 |

写真集『写真家の周辺』によせて 立松 和平（1947-2010）

メキシコ人に似た風貌の男だったと、司修氏が書かれている。そのとおりで、しかも西部劇にでてくる悪役である。だがそばで見ると、目はひたむきに輝き、なんとなくいつもはにかんだような笑いを浮かべている。目標を設定するや、それしか見えなくなるような突進ぶりを示す。私が相田昭に抱いているぼんやりとしたイメージである。たえずひそかに闘志を育てていて、その瞬発力は誰に負けるものではない。そんな具合であるから、相田昭は撮影の対象である文士に嫌われることもあるだろうし、好かれたらば親友のようになるであろう。なんでもまんべんにこなすというのではなく、撮りたいものだけを撮る、どんなに貧乏しようとそのスタンスを崩そうとしない相田昭こそ、文士的である。彼はいいカメラマンだ。魂の交流のない人物には絶対にカメラを向けようとしないのだから、撮られたほうはそれをもって名誉としなければならない。「作家の周辺」が相田昭の第一写真集だと聞いて、私は驚いた。最も古い作品が1973年4月の中村汀女さんで、第一写真集を出版するまで21年以上もたっているのだ。人生の元手を賭けて撮りつづけてきたとあってよいのである。宇都宮の郊外に住んでいた私のところにも、相田昭はやってきた。その時の記憶は鮮やかであり、本書によると1981年12月とある。郵便局で小包配達のパイトをしながら文士を撮りつづけているのだと自己紹介した彼は、眼光鋭く私を見て、撮影する価値があるのかないのか一瞬にして判断したのだろう。幸いにも私の10年以上前の肖像が載っているから、私は彼のお眼鏡にかなったということである。それ以前はどこかの報道機関にいて、なんでもかんでも撮りまくっていた。相田昭は初対面の私にこんな意味のことを語ったものだ。魂をぐいぐいこすりつけてくるような調子だから、多くの先達たちに愛されるのだ。本書をめくり、物故された人たちがあまりに多いことに気づく。印画紙に焼きつけられた光と影は、どれも孤独である。孤独の淵が深いほど、いい作家であるような気がしてくる。それを写真で表現する相田昭も、野に孤独に立っている一本の樹なのだ。若くなるほど孤独の影が少ない。年齢によるだけでなく、文士の顔そのものが変わってきた。そんなことも感じさせる恐ろしい写真集である。（角川書店；月刊誌『俳句』平成7年2月号より）

真下慶治記念美術館

massimo keiji memoriaru of art

〒995-0054 山形県村山市大字大淀 1084-1

TEL 0237-52-3195 FAX 0237-55-2152

E-mail massimo@city.murayama.lg.jp

HP www.massimo-k.org

開館時間 / 午前9時～午後5時 休館日 / 水曜日・年末年始

入館料 / 大人 300円 小・中学生 150円 団体15名以上 大人 250円

